

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	長崎大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナガサキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経済学部総合経済学科
	担当教職員名・役職	松本睦樹・就職委員長
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	11
	受入企業等数	8
	受入企業等名	株式会社十八銀行、株式会社長崎国際テレビ、長崎県企画振興部政策企画課、長崎市出納室、長崎市経済局文化観光部観光政策課、長崎県公立大学校法人長崎県立大学シーポルト校、長崎県文化観光国際部観光振興課、長崎県総務部人事課新行政推進室
	インターンシップの分類	10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1. 当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2. 該当する就業体験	1. 企業等における業務への従事 2. 企業等における課題の解決(例: ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2-2. 「3. その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	通常業務の体験、外回り業務への同行、イベント等の運営補助など基本的に業務に従事する形となっているが、業務の特性により、直接学生が業務に関わることができない場合、企業及び業界の課題に取り組む課題解決型ワークショップや業務のシミュレーション等の体験を行っている。
	要素②	2-1. 当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2. 該当するインターンシップの内容		3. 当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5. 当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7. 当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8. 当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2-1. 「9. その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3. 当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次～4年次
2-4. 当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)		本学部の専門教育科目として、昼間の全てのコースを対象に、また主として3年次学生を念頭に置いて開講している。その位置づけは、「自由専門科目」であり、また授業期間と休業期間とにまたがる「集中講義」となっている。このため、単位登録上限には算入されず、したがって比較的容易に履修できるように配慮している。
要素③	3-1. インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1. 該当する事前学習の内容	1. 学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 4. 学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1-1. 「5. その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2. 該当する事後学習の内容	1. 日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3. 振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2-1. 「4. その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3. 該当するモニタリング	
	3-2-3-1. 「3. その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1. 事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生を一同に集め、まず就職担当の教員と職員がインターンシップの意義等について改めて説いた上で、派遣先企業・団体への連絡の方法や手続きなどに関する留意点詳しく説明し、次に外部講師によってマナーを中心に派遣先での実習中に際しての注意点や学ぶべき点などについて事細かく指導している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生に提出させた日録とレポートに基づき、就職担当教員が学生1人ずつ面談を行い、インターンシップでの学習成果について口頭で試問ないし確認を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	インターンシップ実習後に面談を実施している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	日録とレポート、さらに面談を通じて、派遣先での学習の実態がどうであったのか、またそれを通じて学生本人が何を、またどのように学んだのか、という視点から点数化・評価している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	受入企業の都合により必ずしも連続した期間ではないが、事前・事後学習とは別にインターンシップ実施期間のみで5日以上(基本的に5日～7日)の実施期間を確保している。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実働日数が5日以上、実習時間は計40時間以上という条件での受入れを企業に依頼している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	実施されるインターンシップが、学生への教育的効果を期待するものであるという目的の共有化を図っている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目で取り扱う「インターンシップ」は、採用活動を目的としたものではなく、実際の就業体験を通して学生が社会人としてのマナーを身に付けるとともに、自身のキャリアについて考え、職業観を育てることを期待するものであるという目的に沿った実施期間、実習内容の計画を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/under_g/guidance.html#internship
問い合わせ先	大学等名	長崎大学
	担当部署名	学生支援部教育支援課教育支援班
	担当者役職名	主査(教務)
	担当者氏名	多田拓朗
	電話番号	095-819-2075
	メールアドレス	gakumuka@ml.nagasaki-u.ac.jp